

My Polaris 下瀬事務部長の ポラリス

ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき Beating Kashima 鹿島

チャレンジの年

常務理事
事務部長 下瀬宏

今年度は鹿島病院にとってはチャレンジの年となります。早速4月から10月に4階の医療療養病棟の中に地域包括ケア病床を開設する準備に入ります。地域包括ケア病床の立ち上げにより、鹿島病院は亜急性期、回復期、慢性期、特殊疾患という機能を持つ、現在の慢性期の病院に期待される完成形になると私は思っています。慢性期病院が地域包括ケア病床を開設する事例は全国的に見ても多くはありません。それ程ハードルが高いのです。看護師の配置基準等に対応するための人員の確保やDPCデータの提出のためのシステムの改修、それに伴う記録の整備、60日ルールによる入退院の増加への対応等、高い壁が立ちはだかっています。しかし、これをクリアすることで、鹿島病院は松江の医療圏の中で地域包括ケア体制を構築するために、患者様を在宅へつなぐ大きな役割を担う「なくてはならない存在」としての地位を確立するものと信じています。もちろん現場の皆さんには負担を掛ける訳ですが、私たちは「なくてはならない存在」であることを自覚し、日々の研鑽による更なるレベルアップが必要です。

国は2025年を目標に様々な施策を示していますが、この地域は全国に先駆けて少子高齢化が進み、それに対応してきた地域です。医療も介護も経験は十分です。何れも他地域に比べても高いレベルにあると思っています。私たちが今までやってきたことに、自信と誇りを持って取り組んで行けば何も怖いものはありません。役職員が一致団結して乗り越えて行きましょう。



院内研究会 会長から

リハビリテーション部 作業療法士 星野千晴



3月26日、第14回院内研究発表大会が行われました。年々発表される研究のレベルも上がっているとの評価も頂いており、それぞれのチームから専門性の高い、示唆に富んだ発表が多くありました。会場からも活発な意見が飛び交い、発表者だけでなく参加した職員にとっても沢山の気付きや学びへと繋がる場となったのではないのでしょうか。今回大会長という大役を務めさせて頂き、当日は緊張の連続で至らない点も多かったかと思いますが、皆様のご協力のおかげで無事に終える事が出来ました。大会テーマであった『Step to the future～未来への前進～』の通り、鹿島病院の未来に向けて「新たな一歩を踏み出そう!」と思わせてくれるような貴重な時間を過ごさせて頂きました。

～審査結果～

1位

後発医薬品の使用状況と削減効果について

〈チーム名 薬 局(薬剤部)〉

2位

やさしく、あたたかい病院を目指してPart2
～保険証ver.～

〈チーム名 ほけんの窓口(事務部医事課)〉

3位

鹿島病院の地域包括ケア病床入院対象患者についての考察

〈チーム名 パピヨンⅢ(医療相談部)〉

特別審査員賞

当院におけるNST活動のレキシ

〈チーム名 NST委員会(NST委員会)〉



表彰式のようす



受賞者と院長

特別講演の様子

「高齢者ケアを語る会」に参加してみませんか

「地域医療の現状と鹿島病院に期待される役割」
島根県健康福祉部医療政策課 医療専門員 杉谷亮様



発表大会

～感想～

座長の立場から

今年度の院内研究大会の座長をさせて頂きました。事前に抄録を読み、私が座長をさせて頂くグループの発表者の方々に会いお話を聞きました。発表内容だけでは無く、研究時の苦労話や研究に対する思いを聞く事が出来ました。普段の発表大会では7分という短い時間の中でまとめて発表する為、あまり裏話を聞くことは無いですが、事前の聞き取りのおかげで、座長という立場を通していつもとは違う思いで発表を聞くことが出来ました。これから15回、16回・・・と続いていく院内研究発表大会を良い大会にする為にも何らかのかたちで携わっていきたいと思います。

審査員の立場から

鹿島病院に入職5年になりますが、今回初めて審査員をさせて頂きました。どこの部署の取り組みも興味深く、審査がとても難しかったです。患者様、御家族、病院の為に、職員みんなが頑張っていることがよく伝わってきました。毎年の研究発表は大変だと思いますが、今度も続けていけるといいと思います。

今回、初めて院内研究発表大会の審査員をさせて頂きました。どの演題も興味深い内容で、発表された方々の研究の成果がしっかりとまとまっていて、優劣を付けるのが申し訳ないと思うほどでした。審査員をさせて頂いたことで、院内研究発表会に対する思いも変化し、今後の発表に活かしていけたらと思いました。

今年の院内研究発表大会では、審査員をさせて頂きました。初めてのことであったので、当日までに、参考審査基準を基に自分なりに配点を決め、抄録を熟読し、大体の点を付けておきました。どの発表も分かりやすく、(抄録を熟読していたからだけではありません)優劣付けがたく、悩みに悩んで点数を付けさせて頂きました。あっという間に11題の発表が終わった気がしました。とても良い経験をさせて頂き、ありがとうございました。

22年に初めて参加し、8回になります。初めて参加した時の率直な感想は、抄録の内容や発表にレベル差があるということでした。しかし回を重ねる毎に大きな差が無くなってきたと感じます。何回か審査員をしましたが年々点数を付けるのが難しく、今年は本当にどの発表も良かったです。様々な職種の視点での発表は看護にも参考になることが多いです。発表したことが、どのように現場で活かされているかといった、パート2の発表がないのが残念に感じました。課題をあげているのであれば、継続した取り組み報告を期待します。また鹿島町の住人としては鹿島の町民会館での開催を希望します。

院内研究 アンケートの結果

① 会場について

- 町内の文化ホールでやりたい。
- 鹿島の会場もよいですが、テーブルがあるメッセもよいです。

③ 発表する立場から

- 今回院内研究の発表を初めてさせて頂きました。発表する機会も経験もなくあわててしまう事もありました。自分の思いを相手に伝える難しさを再確認しましたが、今回の経験を活かしていきたいです。
- 発表後、質問も多く、職員さんの反応もあり、発表して良かったと感じました。これからも、発信し続けて良い病院造りの一員として取組んでいきたいと思いました。

② 発表内容について

- 各部署の取組みが分かってよかった。各部署での連携が必要なことも分かったが、今後に繋がるように取組むにはどうしたらよいか考えていけたらいいと思う。
- 各チームとも特色をいかした発表でとても参考になりました。年々内容も充実して進歩していると感じました。特別講演も勉強になりました。
- 今回初めて参加しましたが、様々な視点からの研究発表があつてとてもおもしろかったです。
- 普段はあまり知る事ができない他部署の取組みについて聞く事ができ大変良かったと思います。又発表内容もすばらしく自分自身にとっても良い刺激になりました。

④ その他のご意見

- 他職種の方の発表を聞いて自分の業務に活かせる部分はないかと考えます。
- 高齢者ケアを語る会には参加してみたいと思いました。



今年も新年度がスタートしました。昨年から回復期リハビリテーション病棟(以下、回リハ病棟)では「アウトカム評価」(簡単にいえば日常生活動作の改善と入院期間との割合でしょうか)が導入されるようになりました。これに向けて、当院でも多職種による「質の高いリハビリ」に取り組んできました。その回リハ病棟での結果を下表で示します。

昨年に比べて、新規入院患者やその重症者の割合は増加していますが、在宅復帰率や重症改善率は昨年に比して、より高い結果となりました。また、上記のアウトカム評価は実績指数43.84となり、数値の基準とされている27を上回ることが出来ました。今年度もさらに質の向上を目指し、多くの患者さんが良くなるようにがんばります。

新規入院			退院			
	患者数(名)	重症者割合(%)	平均年齢(歳)	急性増悪、死亡を除く退院患者数(名)	在宅復帰率(%)	重症改善(4点以上)率(%)
27年度	213	36.6	80.2	179	84.9	64.6
28年度	223	39.0	81.9	205	88.7	71.6

アウトカム評価					
対象患者数	入棟期間(a)	入院上限日数(b)	(a/b)の総和	FIM運動項目利得の総和(c)	実績指数(c)/(a/b)
129	10,064	9,453	97.58	4,278	43.84

第4回慢性期リハビリテーション学会感想

リハ部 山本 柗太



3月18日・19日に神奈川県のパシフィコ横浜で開催された第4回慢性期リハビリテーション学会へ参加し、「患者・家族の心の支援」という演題発表をさせていただきました。発表後にはいくつかの質問を受け、新たな視点を見つけることが出来、同じような悩みを持った同職種の方々と意見交換をすることが出来ました。また、シンポジウムや特別講演では、慢性期におけるリハビリテーションの役割について最新の知見や地域包括ケアを中心とした新たな取り組みをテーマとした非常に有意義な聴講をさせていただきました。私は現在回復期リハビリテーション病棟へ配属されていますが、回復期では限られた期間でどれだけ効果的なリハビリを集中して行うことが出来るかが重要であり、そして生活期へと円滑に移行する為に必要な他職種との連携や家族支援について、様々な発表から多くのことを学ばせて頂きました。今回の学会で学んだことを今後の業務の中で活かし、さらに円滑な退院支援を行えるように頑張ります。

自立支援に向けたチームアプローチ

リハ部 原直樹



1月21日に東京で行われた、回復期リハビリテーション病棟協会主催の「第2回 自立支援に向けたチームアプローチ研修会」に参加させていただきました。佐賀県や石川県など全国各地から看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が集まり行われました。看護師・介護士・セラピストがお互いの職種について理解を深め、チームアプローチの実現および充実に繋げる機会とすることを目的とし、講義・実践報告の後にグループワークにてチームでの症例検討を行いました。この研修で職種によって考え方や視点の違いにより患者様へのアプローチ方法が変わり、そのためにお互いの専門性についての理解を深めることでチームアプローチに繋がっていく事を再認識させていただきました。



第29回研究大会in 広島研修

リハ部 小谷健郎



今回、「当院での医療機関外におけるリハビリテーションの現状と課題」を発表をさせていただきました。今大会のテーマは「レベルアップ、スピードアップ、フォローアップ」で、リハ医療の質向上、患者様の改善や連携の効率向上、地域生活継続への貢献など様々な分野の研究発表があり大変勉強になりました。また特別講演や教育講演、最新のリハ関連機器などの展示もあり、知識・技術の向上が図れました。また、回復期の機能の1つである在宅復帰とその生活を出来るだけ長く継続させるための

努力がより一層求められることがわかりました。

今回の研究大会で学んだ知識・技術を業務に活かすと共に、他病院で行っている取り組みなどを参考にしていきたいです。

1 鹿島病院に「高齢者ケアを語る会」が できたきっかけ

医療・介護を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。鹿島病院も、在宅医療連携に取り組み、在宅医療連携の様々な課題を地域の多職種の方々と話し合う機会を設けています。

その取り組みのひとつとして、H27年10月、老年医学がご専門の大蔵暢先生に「高齢者医療について考える」という講演をしていただきました。その中で先生は「終末期だけ、その時の症状にだけ目を向け、その対応にだけ一生懸命になるのではなく、その方の人生や老いを見つめる視点をあわせ持つことが高齢者医療やケアには大切だ」と話されました。「どんな医療が必要か、どんなケアがしたいか」など、出席者の皆さんが思いを巡らせる良い機会となりました。

この講演をきっかけに、このままで終わってはいけない、心の火が消えないうちに何かをしようと「高齢者ケアを語る会」が発足しました。最初は、参加者の負担にならないように2か月に1回の開催と言っていたのですが、「来月もしましょう」と声が上がったことから、今は、毎月1回 18:00～19:00に会議室で開催しています。出席者は今のところ、鹿島病院の職員が対象です。

2 例えばこんなことを話しています…。

今の鹿島病院には、いろいろな方が入院してこられ、求められている役割も多種多様です。そのような中で自分の果たす役割や患者さんへのかかわり方に迷う

ことがあります。たとえば、高齢者で経口摂取が困難になった場合、患者さん本人が今後どうするかという意思を伝えることができないことが多いのです。胃薬をつくるのかどうか迷われる方、点滴をできる限り続けてほしいと希望される家族もあります。患者さんにとって何が最善なのか、本当にこれでよいのかと葛藤している日々です。そんなときに、この会の話し合いはとても貴重なものとなっています。

「高齢者ケアを語る会」には、自分の死、家族の死、看取りのケアについて話し合うこともあり、鹿島病院は何をしたらよいか、何ができるのかを話し合うこともあります。疑問に思うこと、困っていること、どんな医療が必要か、どんなケアがしたいのかななどを職種を超えて自由に、本音で語り合っています。次回は、みんなでご飯を食べに行こうとか、面白い映画があるので見ようなんて日もあります。

3 おわりに

地域の高齢者の医療や介護について考えるとき、一職種や一部署だけで対応するには限界があります。けれど、どのような形で相互により良い関係をつくっていくのかということについては、いまだきちんとした姿があるとは言えないのが現状です。そういう状況の中でまず必要なのは、医療、介護にかかわる様々な立場の現状を理解し、相互に調整できるような対話の場だと思えます。

(文責 曾田淳子、小林裕恵)

参加者募集中
で～す

お茶やお菓子を
準備してお待ち
しています。



鹿島レンジャーに学ぶ(4)

「おそはやの遅早」の巻

診療部 医師 戸田博敏

♪思い通りに動かぬ手足

もっとそれ以上に動かぬ心

…(鹿島病院の唄 歌詞より)

終末期と回復期 時は前後して平成20年7月、鹿島病院新人歓迎会会場に、療養中の小鯖先生(当時院長)からのメッセージ「鹿島病院には若さが足りない」が届けられたとほぼ同じころ、院内研究委員会から全職員宛院内メール(*2)で平成20年度院内研究発表大会(*3)のテーマと演題募集がアナウンスされました。テーマは小鯖先生からの提案で“終末期と回復期”に決まりました。そのメールに対する私の書き込み、鹿島病院には若さが足りぬそうだから鹿島レンジャーも受けて立とうよ。「オネゲシマスダ レンジャーさま」<(_ _)>

めったに顔文字なんか使わないのですが、その時、私の心は自由だったんだなと思います。それに対していくつかの前向きな書き込みがあったのも嬉しいことでした。一部紹介します。

Aさん;新人のブルーレンジャーですが若くないんですけどいいですよ。…以下略

Bさん;文頭略… 新人のイエローレンジャーです。よろしくをお願いします。

Cさん;えー!もしかして私も5レンジャー入りですかー?…以下略

それからの経過は前回、鹿島レンジャーに学ぶ(3)で報告した通りですが、以下に一部再掲します。同年8月、有志により「鹿島病院の唄」大合唱のプロジェクトが立ち上がる。小鯖先生への、サプライズプレゼントとして、次回、院内研究発表大会(*3)で小鯖先生を囲んで全職員で大合唱する。その時までには先生には秘密とする。同年11月、大月さとみ当時看護部長のご尽力で小鯖先生には内緒で「鹿島病院の唄」CDが完成する。CDは合唱、楽器演奏練習に必要なアイテム。その間、有志の輪は少しずつですが確実に広がっていました。坂之上副院長(同年9月)に加え下瀬事務部長、田野リハビリテーション部長(同じく12月)も加わっていただき鹿島病院全体の取り組みとなってゆきます。一步一步進みました。一步一步は一步一步に過ぎないが確実な一歩であり、遅いようで早い。

♪年を重ねるといことは

幸せではないかもしれない …

初めてCDが院内に流れた日 同年12月17日

(水)朝、それはさりげなく流れた(始まった)。その唄「鹿島病院の唄」(作詞・作曲 小鯖 覚)は放送用のマイクを使って流された。有線ほどの音質はない。病棟では朝食の時間。看護さん、介護さんが患者さんの食事介助中。唄は間違いなく流れているが耳に入らない様子。誰にも注目されていない。それでいい、いつの間にか人知れず始まった。まだ注目されていないかも知れないが、間違いなく始まった。始まりは小さければ小さいほどいい。後は大きくなるだけだ。

S根(ね)さん(総務課)「有線が使えるようにA達(だち)さん(医事課)に頼まれました。線が1本足りないのでも有線が使えません。用意しますのでもう少し待って下さい。」S根さん、A達さん有り難うございます。自分では、一人では出来ないことだらけ。しかし、「鹿島病院の唄」大合唱に共感して下さる人達が一人増えるごとに可能性がどんどん高まる。私はもとより微力ではあるけれど、私に出来ることを精一杯やるだけ。全職員へアナウンスする時期が近付いていました。たった一人を除いて

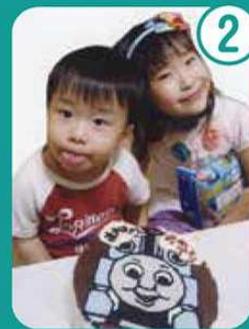
♪今の私にできること …

*1 いっぽ 一歩の遅早「おそはやと金の遅早おそはや(将棋の格言)」をもじったもの。歩が相手の陣地に入るとと金になる。と金は金と同じ動きができるが、1手に一升ずつしか動かせない。しかしと金攻めは遅いようで早いと言われる。

*2 鹿島病院の電子カルテ導入は国内療養型病院の中では最も早い時期、平成18年6月、それに伴いグループウェアが導入された。院内任意のグループ内でスケジュール管理、院内メール、掲示板などが容易で確実となった。

*3 鹿島病院の院内研究発表大会は毎年年度末に行われる。平成20年度は平成21年3月22日、日曜日、鹿島文化ホールで行われた。

この子なぞ〜れ 答えは8ページ



人事のお知らせ

NEWS

(50音順)

人 職

- ①部署
- ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします



安達計太

准看護師
①看護部2F
②スポーツ(特に野球、マリンスポーツ)
③食べること・子供との散歩
④4月より2階病棟でお世話になります。一日でも早く患者様や職員の方に顔を覚えてもらえるよう頑張ります。また、先輩の指導を受け一歩ずつ成長していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



磯部由紀美

調理員
①診療部 栄養課
②創作料理をすることで、失敗すると家族からブーイングです。
③モデルハウスを見に行くこと・飛行機の離陸を見るのが大好き
④おっちょこちょいなので、失敗することが多々あると思っておりますが何卒宜しくお願い致します。



加瀬部直美

調理員
①診療部 栄養課
②部屋の模様替え・読書
③EXILE・バック収集
④3年間の派遣社員からの正社員という事で全くフレッシュ感がないとツツこまれておりますが心機一転、いちから思い頑張りたいと思っております。よろしくお祈り致します。



田中徹

看護師
①看護部4F
②料理
③家でのおんびり過ごすこと
④仕事を覚えて一日でも早く、患者様、職場のみなさんに貢献できるように頑張ります。



田原明菜

調理員
①診療部 栄養課
②お菓子作り
③食べること
④患者様、利用者様に喜んでいただける食事を提供できるように、日々精進してがんばっていきたく思っています。よろしくお祈り致します。



西崎小依

看護師
①看護部4F
②スキー・ダイビング
③旅行
④島根のあらゆる事を学びたいと思ってきました。1つ1つ教えて頂きたいと思っておりますので、よろしく御願致します。



新田由美子

准看護師
①4F看護部
②山登り・バッティングセンターで速い球を打つこと
③野球観戦・圧力釜で炊いた白米
④以前より強く希望していた職場で働くことができ、嬉しい反面、不安と緊張の連続です。まだ何も分かりませんが、地域と医療が一体化した医療サービスが提供できるよう努力していきたいと思っております。一日も早く先輩方に追いつけるよう頑張りたいと思っております。宜しくお願い致します。



森脇裕美

看護師
①看護部2F
②ウエイクボード
③犬の散歩
④出戻りです。働きやすい環境で、プライベートも充実できる病院に就けて良かったです。よろしくお願いいたします。



山口早苗

介護福祉士
①看護部4F
②バレーボール・卓球
③テレビを見ること・食べること
④福祉、医療の仕事に就いて8年目になります。新たな気持ちで早く仕事を覚え頑張りたいと思っております。



山根真衣

看護師
①看護部3F
②柔道
③釣り
④看護師として、社会人として、まだまだ未熟ではありますが、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお祈り致します。

異動 副院長兼薬剤部長 坂之上史(副院長兼リハビリテーション部部长)
リハビリテーション部部长 田野俊平(薬剤部部长)

昇進 看護部部长兼課長 川谷清美(看護部部长代理)
看護部副部长兼課長 曾田淳子(看護部部长代理)
事務部部长代理兼総務課課長 小豆沢正実(事務部総務課課長)
医療相談部課長 小林裕恵(医療相談部課長代理)
在宅サービス部居宅介護支援事業所所長 小川徹子(在宅サービス部居宅介護支援事業所所長代理)
診療部栄養課課長代理 澤幸子(診療部栄養課係長)
看護部課長代理 金坂晴美(診療支援室)
事務部医事課課長代理兼診療支援室室長代理 福田摩実(事務部医事課係長兼診療情報管理室)
医療相談部係長 金田直樹(医療相談部主任)
看護部係長 桑谷昌子(看護部主任)
リハビリテーション部リハビリテーション科主任 山成大治(リハビリテーション部リハビリテーション科)
リハビリテーション部リハビリテーション科主任 吾郷竜一(リハビリテーション部リハビリテーション科)
看護部主任 糸川佳子(看護部)

昇進 看護部主任 今田直志(看護部)
看護部主任 曾田瑠衣(看護部)
事務部医事課主任 江角敦子(事務部医事課)

登用 看護部正規職員 山根千文(看護部看護師)
看護部正規職員 大込加奈(看護部准看護師)

任命 看護部准看護師 奥原智徳(看護部介護福祉士)
事務部医事課課長兼診療支援室室長 安達千代美(事務部医事課課長)
事務部医事課兼診療支援室 向村仁美(事務部医事課)
事務部医事課兼診療支援室 大迫由起子(事務部医事課)

退職 三登早苗(看護部)
山戸あいこ(看護部)
勝手美里(在サ部通所リハビリテーション)
角崎由広(在サ部通所リハビリテーション)
岡野奈月(看護部)
滝倉ひとみ(診療部栄養課)

豆知識



会話を花を咲かせよう!



やまゆり居宅介護支援事業所 青山 善一

初めて会う人と話をする時、会話が弾まず、沈黙が続いて困ってしまったという経験をされた事はないでしょうか？ケアマネは初回面接で始めて会った利用者、家族から今後の支援に必要な情報(体調面、ADL、介護力等)を聞き出します。しかし、ただ単に話を聞くだけでは事務的になり冷めた印象を持たれ、本音を聞き出す事が出来なくなります。

そこで私は話の中で、共通点を見つけるようにしています。出身地や出身校、好きな野球チームや好きな食べ物、好きな音楽など、その方との共通点を見つけることで、話が弾み、相手に安心感を与え、緊張がほぐれ会話をスムーズにすることが出来ます。

私は以前、利用者さんと同じ高校を卒業したという事で、話が盛り上がり緊張も解け、沢山の話を聞かせて頂く事が出来ました。

これから新年度になり、地域の集まりや子供の入学などの場面で初対面の方と話をする機会が増えると思います。会話の中から共通点を見つけ会話を花を咲かせてみてはどうですか？

この子はだれ〜れ 答え

1

看護部
串崎 瞳さん
結愛(ゆな)ちゃん
咲愛(さな)ちゃん

2

事務部
金津 洋さん
陽央里(ひおり)ちゃん
碧杜(あおと)ちゃん

職員数

職 種	職員数
医 師	6人
薬 剤 師	3人
P T	21人
O T	19人
S T	5人
看護師(准看護師)	86人
臨床検査技師	2人
診療放射線技師	1人
M S W	5人
介護支援専門員	6人
介護福祉士(介護職員)	69人
歯科衛生士	2人
管理栄養士(栄養士)	4人
調 理 員	11人
事 務 職 員	17人
合 計	257人

29.4.1現在

鹿島病院

①外来部門

(診療日数63日)		1日平均人数
延外来延患者数	1,225人	19.4人/日

②病棟部門

②-1:2F病棟(特殊疾患病棟)

(診療日数91日)		1日平均人数
延入院患者数	5,176人	56.9人/日
レスピレーター装着延患者数	2,220人	24.4人/日
リハビリ延実施数	1,593単位	17.5単位/日

②-2:3F回復期リハビリテーション病棟 (回復期リハビリテーション病棟)

延入院患者数	4,294人	47.2人/日
脳血管疾患リハビリ	12,139単位	133.4単位/日
廃用症候群リハビリ	2,867単位	31.5単位/日
運動器リハビリ	12,270単位	134.8単位/日
呼吸器リハビリ	単位	0.0単位/日

②-3:4F病棟(医療療養病棟)

延入院患者数	5,020人	55.2人/日
脳血管疾患リハビリ	446単位	4.9単位/日
廃用症候群リハビリ	1,501単位	16.5単位/日
運動器リハビリ	1,522単位	16.7単位/日
呼吸器リハビリ	859単位	9.4単位/日
がん患者リハビリ	278単位	3.1単位/日

②-4:短期入所療養介護

ショートステイ延利用者数	25人	0.3人/日
--------------	-----	--------

公仁会事業報告

H28.12月・H29.1月・2月

在宅サービス部

①通所リハビリ“やまゆり”

(稼働日数73日)		1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,140人	29.3人/日
短期集中リハビリ実施数	112単位	1.5単位/日

②鹿島病院デイサービスセンター

(稼働日数73日)		1日平均利用者数
通所介護延利用者数	1,508人	20.7人/日

④訪問看護“いつくしみ”

(稼働日数59日)		1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	220人	3.7人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	539人	9.1人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	250人	4.2人/日

⑤鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数64日)		1日平均利用者数
延ケアプラン策定数	426人	14.2人/月
延ケアプラン予防ケアプラン数	59人	2.0人/月

医療法人財団公仁会 基本理念

私たちは、仁愛をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会 基本方針

- ① 鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- ② 患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりといつくしみの心で接します。
- ③ 技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会 行動指針

- ① **Safety** …安全を最優先します。
- ② **Speedy** …変化に能動的に挑戦します。
- ③ **Service** …おもてなしの精神で接します。

▶ 医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、
松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

1. 良質な回復期・慢性期医療の提供(病院機能)

- (1) 回復期医療の充実
- (2) 良質な慢性期医療の提供
- (3) 質の高いリハビリテーションの提供
- (4) 看護体制の充実と強化

2. 在宅生活を支える医療の展開(在宅サービス機能)

- (1) 良質なリハビリテーションの提供
- (2) 良質な在宅生活支援サービスの提供

3. 地域連携 及び 地域貢献

- (1) 病院連携、病診連携、地域(行政(県・市・保健・福祉・介護)、地区)連携

- (2) 予防医療や介護技術を地域へ普及
- (3) 地域への情報発信

4. 人材の確保 及び 育成

5. 医療安全・院内感染対策の推進

6. 医療サービスの質の改善への取組み

- (1) 機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2) 臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3) 患者満足度向上の組織的取組み
- (4) 施設・設備・環境の整備と充実

7. 新電子カルテシステムの検討・移行準備

▶ 患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。
患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

2. 平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

3. インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。

その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聴く(セカンドオピニオン)ことができます。

4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしに開示されません。

▶ 鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定(平成22年1月6日：部長会承認)

1. 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
2. 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
3. 終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
4. 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
5. 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。

栄養課では、患者様を対象とした調理レクリエーションを開催しています。
今回は1月・3月に行った調理レクの様子をご紹介します。

診療部 栄養課 樋野早紀子

1月6日 手打ちうどん

新年最初の調理レクは、手打ちうどんを行いました。
身体を使って作るものにしたらどうだろう?ということ
で企画したうどんレクは、手や足でうどんの生地をこねる
ところから始めることに。うどんづくりは意外と体力が
いる…と、なかなか大変でしたが、香川県出身の田井先生
のご指導もあり、おいしいうどんができあがりました。会
場は大盛り上がりで、患者様は茹でたてのうどんをおい
しそうに食べておられました。



3月9日 手作りピザ

3月に行ったピザづくりでは、ミニサイズのピザ生地の上にお
好きな具をのせてもらい、その場で焼き立てを召し上がって頂
きました。ピザ生地も患者様ご自身で作って頂き、それぞれの
個性溢れるピザが完成!中には特大のピザを作って、周りの皆
様にも振る舞ってくださる方もおられました。
回を重ねるごとに盛り上がってきた調理レク。「あの時の調理レ
クが楽しかったよ」と嬉しそうに話してくださる患者様の声を聞
くと、楽しみにして頂けているのだな、と実感します。今後も皆
様に楽しんで頂けるよう頑張りますので、ぜひご期待ください。



行事食・セレクトメニュー



月に一回ずつ行事食、セレクトメニューも
行っています。
正月、節分、ひな祭り…と行事食の日は、厨
房内はいつも増して慌ただしく、戦場のよ
うですが、こうした食事提供が患者様の楽し
みになれば、と栄養課一同頑張っております。
新年度も、楽しい食事を提供できるように頑
張りたいと思います。

韓国のおやきを
手作りされました

リ八部 作業療法士 今田桂子

3階病棟に入院されていたTさんと韓国
のおやき‘ホットドック’を作りました。T
さんは何でも手作りされる素敵な方で、
今回も生地から作り、中にはあんこバ
ターを入れました。お世話になった職員の
皆さんに配り、おいしく頂きました。



編集後記

暦の上では春となりましたが、日々の温度変化に体調管理に気
を使われているのではないのでしょうか。ときめき鹿島は今回オール
カラーに刷新致しました。興味をもって頂けるよう
工夫していきたいと考えております。

広報委員長
看護部長 川谷清美

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/
鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637
鹿島病院デイサービスセンター

TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 さんきゅう印刷

